

2016年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	「清親—光線画の向こうに」展			担当者名	学芸係 村瀬可奈			
会期	2016年3月12日(土)～4月17日(日)			開催日数	32日間			
協賛・後援・協力	なし。							
巡回館	なし。							
展覧会概要	明治に活躍した浮世絵師・小林清親(1847～1915)の画業を回顧する展覧会。没後100年を記念し、代表作である『東京名所図』をはじめ、諷刺画や歴史画、戦争画や雑誌の挿絵など、多才な仕事を紹介した。当館の収蔵品のほか、約20箇所の施設・個人より借用した作品、全326点を前期と後期に分けて展示した。							
ねらい・対象	当館の浮世絵コレクションの一つの柱である、小林清親作品の全貌を紹介することを目的とした。またこれまでにあまり紹介されてこなかった諷刺画や挿絵を取り入れた展示構成で、新たな清親像を提示することを目指した。対象は、市内外の浮世絵ファンや、版画に関心のある鑑賞者。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル	講師等	参加者数			
	講演会	4月3日(日)	開化の浮世絵師・清親を語る	世田谷美術館館長 酒井忠康氏	95人			
	落語会	3月27日(日)	美術館が寄席に！清親落語会	落語家 林家正雀氏	109人			
	現代作家による公開制作	3月19日(土)	「ツツミアスカ 時間と層の羅き」—木版拓摺りとインクジェットプリント、古典技法と現代技法の融合—	美術家 ツツミアスカ氏	52人			
	プロムナードコンサート	3月13日(日)	プロムナードコンサート	ジャズピアニスト 小池純子氏	255人			
	館長スペシャルトーク	4月10日(日)	館長スペシャルトーク	当館館長 村田哲朗	60人			
	ギャラリートーク	3月20日(日)、4月17日(日)	ギャラリートーク	当館学芸員 村瀬可奈	30人、64人			
観覧料	一般	65歳以上	大・高生					
	800円	400円	400円					
観覧者数	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、65歳以上	内、大・高生	内、小・中生	内、その他
	5,321人	1,726人	7,047人	4,578人	2,172人	166人	131人	0人
	目標値	5,900人						
主な収入	観覧料収入		図録販売収入		受託販売収入		その他の特定財源	
	2,958千円		1,748千円		0千円		0千円	
事業経費	<b>【展覧会開催経費】</b> ・講師謝礼 55千円 ・協力謝礼 10千円 ・出陳謝礼 163千円 ・執筆謝礼 90千円 ・筆耕翻訳料 90千円 ・図録作成等業務委託料 3,733千円 ・ディスプレイ作成等業務委託料 1,026千円 ・輸送および展示・撤去等業務委託料 2,192千円 ・マット装額装業務委託料 385千円 ・広告宣伝委託料 815千円						8,559千円	
主な広報・取材等の講評	「全300点余。観た！という充実感をこれほど味わわせてくれる展覧会は珍しい」(『都政新報』2016年3月25日) 「その活動全般を振り返り、ジャーナリスティックな側面を再評価する展覧会」(『神奈川新聞』2016年4月5日)							
アンケート結果	回収数	回収率	市民率	リピーター率	満足度(とても良かったと良かったの率)			
	272件	3.8%	28%	61%	企画の内容	展示作品	展示の仕方等	
					96%	93.8%	81.7%	
	主なご意見		別紙のとおり。					

反省点と改善方法	予備調査	約1年半前より他館への調査や文献収集などを準備よく行った。出品交渉は約1年前より順次行ったが、準備中、展示室内で修繕工事を行ったため、借用先へ展示室環境等の報告書を提出する必要があった。今後も施設の修繕を行う際には、早めに東京文化財研究所へ連絡・相談を行う必要がある。
	作品選択	当館の収蔵品を軸に構成。収蔵の少ない諷刺画や戦争画は、他館・個人より借用し、全326点を選択した。出陳を希望していたものの採しきれなかった作品について、会期中に提供してくださる方があられ、後期展示より「特別出品」として借用できたことは幸運であった。
	図録作成	通常浮世絵展は図録の売れ行きがよいため、他の企画展より300部多い1500部を作成した。頁数が多いので軽い紙を採用し、判型もA4より一回り小さくし、手に取りやすいよう工夫した。論考2本、作品解説、年表、参考文献一覧、コラムを掲載し、情報量の多い図録となった。しかし、総頁数278頁からくる重量感や、印刷の質・デザインには今後改善の余地がある。 図録作成業者とは定期的に打合せを行い、概ねスケジュール通りに進行した。しかし、作業の効率化のため作品画像をデジタルデータで入稿したところ、印刷の色味や鮮明度で劣る部分があり、結果としてはポジフィルムで入稿するべきであった。巻末には章解説と作品目録の英訳を掲載したが、英文校正に時間がかかり、校了間際にバタついた。例年通り筆耕翻訳料で直接翻訳者と契約し、校正は図録作成業者に依頼したが、今後は図録作成業者に一括して翻訳・校正を委託するほうが作業がスムーズである。
	ディスプレイ	展示作品の一部を拡大した記念撮影パネルを作成したところ、会期中に倒れてしまうというアクシデントがあった。幸い怪我人はなく、その後はパネルを壁際に移動させ、固定した。パネルの構造に問題があり、当初より立て札で注意喚起をしていたが、危険と認識した時点で設置場所を替えるか撤去するべきであった。今後は危険のないよう、ディスプレイ業者と十分な事前打合せを行うこととする。 また展示室内では、作品の理解を深めてもらうためすべての作品に解説をつけた。好評であった反面、鑑賞に時間がかかり、図録の購入者が減るといふデメリットも浮かび上がったので、今後はもう少し簡略化してもよいと感じた。
	広報	展覧会の1ヶ月半ほど前に、プレスリリースを発送した。各社新聞や美術雑誌の情報欄で紹介され、またNHK『日曜美術館 アートシーン』やフジテレビの『正直女子さんぽ』などのメディアにもタイミングよく取り上げられた。アンケートでは、来館者の情報源としてポスターや新聞(特に朝日新聞)、上記のテレビ番組が多かったほか、SNSを挙げているひとも散見された。
	イベント	林家正雀氏による落語会は、展覧会とも関連をもたせた口演で、参加者に大変好評であった。高座に使う平台や毛氈、金屏風などは市民ホールの備品をお借りした。酒井忠康氏による講演会は、スライドを見ながら作品にまつわるエピソードを語るという形式をとった。いずれの企画も、「また開催してほしい」という声が多かった。
	作品輸送	作品輸送は予定通り進み、特に大きな問題はなかった。
	展示撤去	展示撤去の作業は予定通り順調に進んだ。しかし、展示ケースの中で書籍や冊子を固定するテープが会期中に一部外れてしまい、展示替で修正することがあった。こうしたものは展示業者に任せきりせず、最後に学芸の目で再確認する必要がある。
その他特記事項	展覧会の来館者より清親作品1件の寄贈申出があり、2016年度の収集委員会にて受贈した。ほかにも1件寄贈の問い合わせがあったが、すでに当館で収蔵している作品であったため、他館への寄贈を勧めた。会期中、清親作品を所蔵しているという方の来館が想像以上に多く、今後さらに新出の作品が出てくる可能性を感じた。	

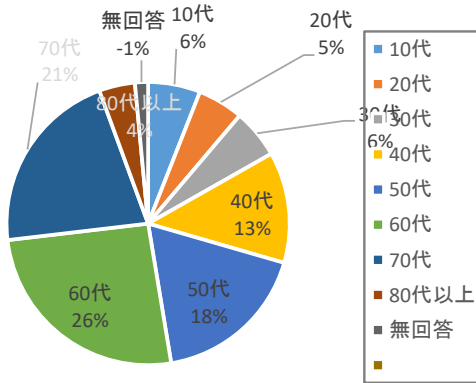
# 「清親—光線画の向こうに」展

## アンケート集計結果

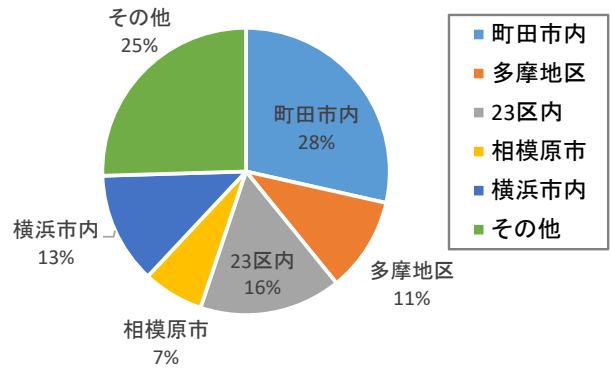
開催期間：2016年3月12日（土）～4月17日（日）

回答者数： 272 人（総入館者数：7,054人 アンケート回収率：3.8%）

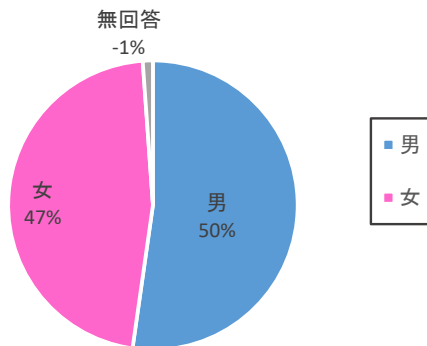
### ① 年齢層



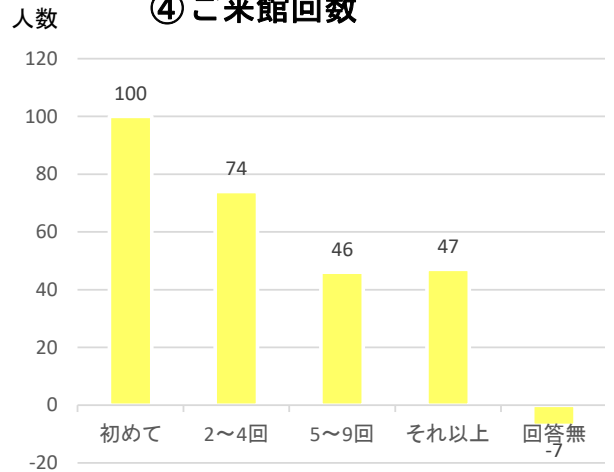
### ② お住まい



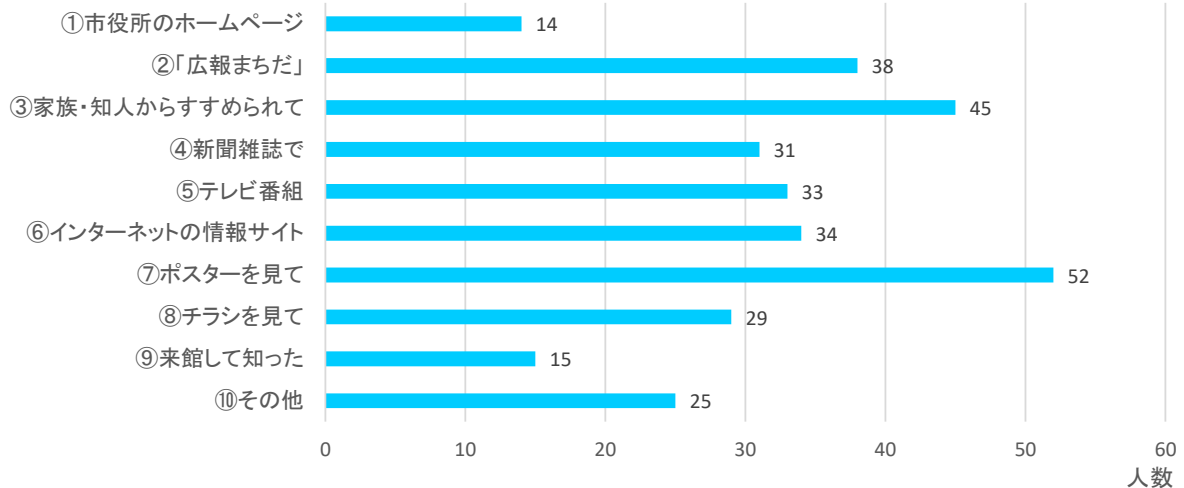
### ③ 性別



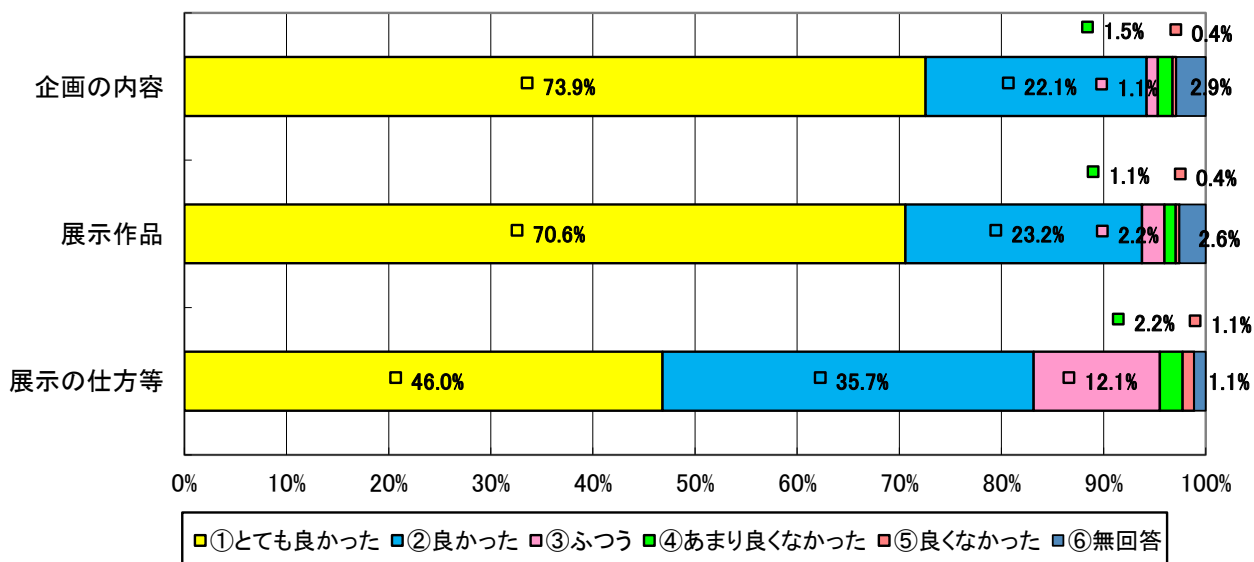
### ④ ご来館回数



### ⑤ 展覧会情報の入手



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

- ◆清親の作品が地元で見られて感激した。
- ◆市民としてとても恵まれていると改めて思った。キュレーターやスタッフの尽力に感謝する。
- ◆清親の名前は知っていたが、ここまで多才でセンスの良い画家とは思っていなかった。
- ◆展示品の多さに驚き、よく集めたと思った。見ごたえがあり満足できた。
- ◆『日曜美術館』で知って初めて来館。清親の作品や周辺の作家が網羅されており、熱意と誠実さに好意をもった。
- ◆落語のイベントが楽しかった。 ◆公園内の美術館で、静かで気持ちが良い。
  
- ◆作品が多すぎて、途中から集中力が途切れた。休憩用のイスを増やしてほしい。
- ◆浮世絵展なので仕方が無いが照明が暗い。ガラスに光が反射して観にくい。
- ◆大きい声で話している方、携帯を使って話している方が迷惑だった。 ◆駅から遠い。
  
- ◆平日の昼に子どもと来たい。子どもむけの企画や託児サービスがあると嬉しい。
- ◆初日を無料にするだけでなく、町田市民への割引サービスがほしい。
- ◆広報(特にポスター)を増やして来館者増を。 ◆定期的な浮世絵展の開催を望む。

今回の来場者の年齢層は、40代から70代が多く、比較的高めであった。住まいは「町田市内」に次いで「その他」が多く、展覧会を目当てに遠方より来場する方もいた。

来館者数は当初伸び悩んだが、最終的に目標を1,147人上回った。2015年の没後100年を機に、清親の人气が高まっていたこと。また会期中にNHK『日曜美術館』やフジテレビ『正直女子さんぽ』、J:COMで紹介されたことが来場者増につながった。

展覧会の情報入手先としては、ポスターが圧倒的に多い。チラシと答えた人数が意外にも少なかったため、今後他施設への配付枚数を増やしても良いかもしれない(本展ではチラシの残部が多かった)。そのほか、他館が配信しているSNS情報を見たという声も複数あり、当館でも自ら発信可能なSNSの導入が望まれる。

250作品を一堂に展示したボリュームのある展示構成であった。そのため、「見ごたえがあった」もしくは、「作品が多すぎて疲れた」と意見が分かれ、「後日ゆっくり再訪する」、「後期展示も来館する」という方も少なくなかった。今後も浮世絵展の来場者は年齢層が高いことが予想されるため、満足度を保ちつつ、適切な作品数や解説数を見極めて展示したい。再訪者に対するサービスを求める声もあり、リピーター割引は効果的であると感じた。